

第8回 足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会

◎第8回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会が平成24年8月28日に福井県教育センターにおいて開催されました。
また、委員会開催前にダムサイト予定地ほかへの現地視察会が行われました。

審議状況



第8回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会及び現地視察会は、水環境、鳥類、爬虫類、両生類、陸産貝類、魚類、生態系、陸上昆虫類、付着藻類、河川物理環境を担当分野とされる10人の委員で開催されました。

第 8 回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会出席委員

担当分野	氏 名		現 職 等
水 環 境	奥村 充司	おくむら みつし	福井工業高等専門学校環境都市工学科 准教授
	福原 輝幸 (委員長)	ふくはら てるゆき	福井大学大学院工学研究科 教授
哺 乳 類	西垣 正男	にしがき まさお	福井県農林水産振興課 主任
鳥 類 (鳥類部会)	松村 俊幸	まつむら としゆき	福井県海浜自然センター 次長
	久保上 宗次郎	くぼかみ そうじろう	猛禽類研究家
	林 武雄 (鳥類部会長)	はやし たけお	日本鳥類保護連盟 福井県支部長
	上木 泰男	うえき やすお	日本鳥類保護連盟
爬 虫 類 両 生 類 陸 産 貝 類	長谷川 巖	はせがわ いわお	福井県両生爬虫類研究会 会長
魚 類 生 態 系	加藤 文男	かとう ふみお	元 仁愛女子短期大学 教授
陸上昆虫類	下野谷 豊一	しものや とよかず	日本鱗翅学会 会員
底生動物	前田 正紀	まえだ まさのり	元 仁愛女子短期大学 准教授
植 物 生 態 系	渡辺 定路	わたなべ さだみち	元 福井市自然史博物館 館長
附着藻類	安達 誘	あだち さそひ	福井陸水生物研究会 会員
河川物理環境	角 哲也	すみ てつや	京都大学 防災研究所水資源環境研究センター 教授

※久保上委員、下野谷委員、松村委員はご欠席。角委員は現地視察会のみご出席。

第8回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会での審議骨子

I. 事務局からの報告

事務局より以下の事項が報告されました。

- ・ 環境影響評価の手続きについて
- ・ 足羽川ダム周辺の環境について

事務局からの報告に対する委員からの意見及び事務局回答は以下のとおりです。

委員からの意見	事務局回答
水質の測定結果は、平均値の増減のみではなく標準偏差の1倍2倍程度の範囲内の変動にあるというような評価も行ったほうがよい。	調査結果については、標準偏差を用いて、影響評価を変更すべき大きな環境の変化はなかったことを確認しました。
ダム建設により自然環境が変化することによりニホンジカが増殖し人に悪影響を与える可能性があるので、必要に応じて調査を実施するほうがよい。	ニホンジカだけでなく新たな環境問題についても、専門家のご指導及びご助言を得ながら、必要に応じて調査を実施していきます。
貯水池内のスギは伐採するのではなく流域管理の観点から、管理していく方法も検討して頂きたい。	ダム洪水調節地内の管理を検討する際に、既存樹木の残置対応や在来種の植樹の検討を行いつつ、適切に検討していきます。
アジメドジョウの環境保全対策に関する調査結果や、今後のモニタリングに関する内容を教えていただきたい。	次回の委員会でご報告します。
現地を見て過疎化が進んだように感じた。地域振興も考えて欲しい。	環境影響評価と別に、国、県、池田町と連携し地域振興策の検討を行っているところです。
新たに貴重種が見つかる場合もあるので、10年間隔でしっかり見直し調査を実施した方がよい。	専門家のご指導やご助言を得ながら、モニタリング計画を作成し、引き続き、工事着手前、ダム建設中及び供用後も調査を行います。
河川と地下水は連動しているので、今後もモニタリングを実施していただきたい。	専門家のご指導やご助言を得ながら、モニタリング計画を作成し、引き続き、工事着手前、ダム建設中及び供用後も調査を行います。
足羽川ダム周辺の環境の現状を確認した結果、影響評価を変更すべき大きな環境の変化はなかった。 事業者は環境調査の続行を行い、環境に変化があれば早めに委員に情報伝達してほしい。また治水だけでなく環境面にも配慮した先進的な評価が得られるダムづくりに努めて欲しい。	現在の評価書（案）により環境アセスの手続きを進めます。 委員会の意見を踏まえ全体として事業が進むよう検討を行います。